

令和4年度第1回愛媛県スポーツ推進審議会議事録

1 日 時 令和4年5月10日(火) 13:30~15:00

2 場 所 県庁第二別館6階 大会議室

3 委員数 15名

(1) 出席委員 (15名)

田口信教(会長)、曾我部公代(副会長)、牛山眞貴子、大瀧良子、大野加壽子、
緒方義彦、久保田加寿美、河野賢嗣、清水貞之、寺尾和祝、友澤義弘、
中川祐二、福井美香、山口奈美、渡部勇二 ※敬称略

(2) 事務局 高岡観光スポーツ文化部長、神原スポーツ局長、吉田地域スポーツ課長、津司
えひめ愛・野球博推進監、松野競技スポーツ課長、新田男女参画・県民協働課
長、菊池障がい福祉課主幹、尾崎長寿介護課主幹、伊藤ねりんピック推進課
担当係長、吉田保健体育課長、池田全国高校総体推進室長 外

(3) 報 道 なし

4 内 容

第2期愛媛県スポーツ推進計画(仮称)の策定等について、地域スポーツ課から説明を行った。

これに対して、委員各位から以下のような意見・質問があった。

(田口会長)

○県民の意識調査に自然災害など、サバイバルの中で生き残っていく術を教える教室を開いてほしいかの設問を入れてほしい。真冬に海に落ちた場合、約5分で低体温症になるが、どうすれば浜に泳ぎついて、どうやって体の保温性を保つのか、浜に打ち上げられている発砲スチロールや火のおこし方に体温を保温できる術がある。サバイバルの教室を教えてほしいという人は意外と多い。

(大野委員)

○これだけのことを計画、発信されているため、その結果に非常に興味がある。その結果がこの資料の中に入らないのかな、難しいのかなと思う。この計画を実行し、発信してみたらその結果、次はどういうふうに改善していけば、もっと前に進むのではないかなと思う。結果がほしいし、その結果を県民に発信していただきたい。

(牛山委員)

○県民の意識調査の10ページの間22「あなたが、スポーツに関わるボランティア活動に参加するにあたって課題となっていることはなんですか。」で、ボランティアに行きたくても、コロナの影響があって行けないという理由もあるので、選択肢に入れてほしい。これだけの選択肢があるとその他の項目が端折られて、薄れていく。コロナの影響を同じく20ページの間8「運動やスポーツを全くしなかった理由は何ですか。」も、これから5年間でやっていく上で、感染症、後遺症、コロナトラウマの影響は見ていく必要があると思う。

また、7ページの間15「今後してみたい運動やスポーツは何ですか。」では回答者の心理状況から、選択肢の30番くらいまで読んで丸を付けたら、それ以降は適当になりやすい。最後の選択肢までしっかり読んでもらうアンケートとするため、1～30、31～59の2ページに分けて記載したほうがよい。

(田口会長)

○県の施設管理運営費については、長い間、審議会に参加させていただいて、こうやったら管理費が浮くのではないかとか、儲かるのではないかとか、運営費が捻出できるのではないかとか、提案は結構したが、毎回メンバーが変わっているため、反映されていない。諸外国のオーストラリアなどは持ち出しがゼロである。スポーツ施設を作ってNPOが運営し、自主財源を自分たちで見つける。捻出しない限り、修理・修繕も人件費もださないし、収入も上がらない。上げる方法を提案すると、県の予算をあまり使わなくなり、新しい施設を作る経費に回せるし、そんなに難しいシステムではない。例えば、施設を利用するための年会費は一つしかない。時間帯や曜日の指定もないためいつ使ってもよく、一年中使える方法しか取り入れていない。海外では土日の込み合う時間に使えるチケットがある。施設の中にスポーツ道具を持ち込むロッカーの料金は別に払う。濡れたタオルや道具等を置いておくオプションでクリーニングサービスがあり、毎回来るごとに綺麗な状態でロッカーに入っている。至れり尽くせりの公益施設でやっている。諸外国で成功している例を参考にすると良い。

(久保田委員)

○20ページの児童・生徒の調査で問9は全員が答える内容となっているため、加入していない方が選択できる選択肢を入れてほしい。

(田口会長)

○競技力をアップさせる方法や世界の競技力に興味がある。国力を挙げてレベルアップに取り組んでいるオリンピック委員会が、カナダオリンピック時に製作した政策プログラムはよくできている。それにはハイレベルな人たちだけでなく、地域の下から頑張る上がっていくためのいろいろなシステム、優越感をくすぐるようなシステムが書いている。

(福井委員)

○スポーツをされている方はいろいろな場所でするため、調査に施設の内容を盛り込んでいただいているので良いと思う。

(田口会長)

○県のスポーツ推進関連事業はバランスがよくとれている。出来れば、予算の投資で呼び水になる、例えばイベントでも観光に繋がる予算の配分を提案してもおもしろい。自分は医療創生大学のため、医療系でものを考えてしまう。インプラントは歯だけでなく、足に付けたりし、今はサイボーグの時代である。健常者よりも早く走れる足がつくし、健常者よりよく聞ける耳を付けられる。見えない目は見えるようになる。緑内障もインプラントで見られる。時代にあったパラリンピック、障がい者に繋がるイベントにしてほしい。足や手につけて同じようなフォームができる。物がすごく進化しているため、スポーツの中にうまく取り込むとスポーツイベントができる。健常者よりも高跳びや幅跳びで新記録がでて、42.195kmのマラソンを跳ねていくと1時間ぐらいで走れる。そのようなスポーツになりつつある。それを愛媛県からぜひ発信してほしい。

→ (地域スポーツ課長)

○まず田口会長からいただいた質問について、資料の6の3ページに今年から障がい者と健常者ともに楽しむことができる新規事業として「(10) インクルーシブスポーツ等普及推進事業」がある。例えば、堀之内の回りで目の不自由な方と健常者が伴走ロープを持って走っているが、自分たちで買わないといけない。その隙間の部分にも目を向けて、インクルーシブな環境を作ってやろうということで、今年からチャレンジすることとしている。また、次のページの「(12) 生涯スポーツ推進事業の④愛媛スポーツ・レクリエーション祭開催費」では、全国スポレク祭を平成元年度に本県で開催して以降、県でもスポレク祭を開催しており、種目に新たなスポーツを積極的に取り入れるようにしている。小さな競技団体でも全県下的に人を集めてやる種目であれば、毎年追加・入替えをし、新たな形のスポーツを少しずつ取り入れている。

また、イベントで人を集める提案については、4ページの「(14) スポーツ交流推進事業費」や「(15) スポーツイベント等誘致戦略費」で、国体時に出来た施設を活かして、県内競技団体が主催で新たな大会の開催やイベントの誘致に県から補助している。例えば、大学生の団体テニスの王座決定戦を県総合運動公園に誘致し、毎年10月に開催することで、交流人口の拡大や愛媛ファンの獲得に繋げている。大野委員からいただいた計画の成果を発信してはどうかとご意見については、スポーツ推進計画策定時の意識調査などで、例えばスポーツの実施率や様々な事業に対する県民の関わりなどを調査結果として公表している。今回も1年間の作業の中で実施することとしており、結果も公表し、計画の中にも盛り込みつつ、次にこうし

ていくという流れが出来れば良いと思っている。次回以降の審議会の中で議論していただきたい。

牛山委員からあったコロナ関係の選択肢については、修正させていただく。

田口会長からあった施設管理費の件について、県武道館や総合運動公園では指定管理者制度を取り入れており、5年に1回、指定管理者を募集している。令和5年度が新しい指定管理者を募集、決定する年度となるため、新しく作成する仕様書に可能な限り反映させるよう検討していきたい。

久保田委員からあった児童・生徒の選択肢も修正させていただく。

(田口会長)

○海外で成功している例がある。どうして海外でやれて、日本でやれないのか。一番の原因は様々なルールが羽交い絞めになっていることが多い、それを取っ払ってあげると収益性のある施設になる。施設の中に収益事業を持ち込むことがなかなか難しい。競合他社をいれてやるのが難しく、1業者の独占となっている。海外では1施設に複数業者いる。様々な施設を見て、すごく不思議に思う。ぜひ自由にやれるような体制に行政側でルール変更をしてほしい。

(大野委員)

○大きな視点と小さな視点が必要だと思う。資料5-1の成人の県民の意識調査の6ページの間14「運動やスポーツを全くしなかった理由は何ですか。」で、この調査は意識調査であって、希望調査ではない。例えば「一緒にする仲間がいない」では、どのようにしたら仲間ができると思いますかとか、「やりたいきっかけがない」では、どのようなきっかけがあればできますかとか、「体が病弱である。」では、どのようなことを配慮すればできるようになりますかなどを記載する欄があれば、そういう視点から予算を出して活動する根本に繋がっていくと思う。聞くことは簡単だけど、聞いてどうしてあげたらできるのかという大きな視点で、聞いてくれると嬉しいな、やってくれると嬉しいな、そのきっかけをもって、もう1回スポーツに戻ろうかなとか、そういうふうにならないかなと思う。

→ (地域スポーツ課長)

○今のご意見を参考にさせていただく。

(中川委員)

○嫌いな理由を書いてもらおうと、それについての課題を何かと進めていく必要がある。好きな理由も逆に大事だと思う。成人には項目としてあるが、児童・生徒にはない。19ページの間3「運動やスポーツが好きですか。」で次にいきなり嫌いな理由がきている。好きな理由や行う理由がでることで、プラスのところが目がいって、やろうかなと気持ちが起こる人も出てくると思う。それからもう1点、問3では「する」「見る」と出ている

が、「支える」ことが出てきている。支える楽しさから、スポーツにもっと関わってみたいなど、そういう気持ちに繋がるのかなと思う。それを聞かれると結果がでてくると思う。

(田口会長)

○福島いわきの公園にはたくさんの散歩している方がいて、イベント開催時には仲良く参加している。束ねている人が地域に何人かいて、公園のごみ拾いにも参加する。ボランティア団体だけど、そういう人たちをうまく、イベントに参加させて、いわきマラソンや自転車大会、川、海の清掃にも参加する。年会費をとっているわけではないけど、そういうやりとりをしている団体は以外と多い。すごくいい運動になっていると参加している人から返ってくる。マラソン大会などのスポーツイベントは単体で参加するが、いろいろな大会に出たいと思っている人は結構いると思う。1回参加した人は次も参加しませんかというよりは、年間にこんな大会があり、年間費払うと全て登録が1度でできますというものを作っていくと、参加する人が増えていくのかなと思う。そんな中に奉仕活動やサバイバルの体験も入れ、夏になるとイベントをやりますとお知らせがくる。年会費を払うことで参加しないと損すると思い、意外と参加する。施設で毎週泳いでいるが、年会費 57,000 円を払っている。いつ来ても何回来ても良い。温泉とプールが使いたい放題である。払うと行かないと損だと思い、皆さん来る。様々なイベントを束ねたアラカルトの年会費があっても良いのではないかなと思う。ぜひ施設管理費、収益を上げて、維持費を捻出する意味で作っていただければと思う。愛媛県出身のものですから、愛媛県からおもしろい、ニュースになりそうなイベントができればいいなと思う。

(曾我部副会長)

○私たちはスポーツ推進委員といってウォーキングなどのスポーツを年間通じて行い、体を動かしている。運動を通して、体を動かす、みんなとコミュニケーションをとることはとても大事なことだし、これから長生きをしようと思ったら、そのような団体の中に入ると、楽しくできるかなと思う。

(山口委員)

○アンケートは良くできているが、前回の結果が分からないため、比較がしにくい。

(寺尾委員)

○アンケート項目は経年変化を見るというので、あまり項目を大きく変えることは難しい。他の委員さんからご意見をできるだけ項目に取り入れながら、作成をお願いできたらと思う。事務的な話で申し訳ないが、調査は業者に委託すると思うが、スポーツ庁で第3期計画も策定し、各都道府県でも計画を作られると思うので、サンプル数なども参考にし、加味していきながら、新しい計画を作っていただきたい。

(牛山委員)

○資料4の第3期スポーツ基本計画（概要）を見ていると、小体連、中体連、高体連、教育委員会の方も来られているが、「感動していただけるスポーツ界」の実現に向けた目標設定について、国が生涯にわたって運動・スポーツを継続したい子供の増加で現在86%から90%、子供の体力の向上では総合評価C以上が児童で80%、生徒で85%となっている。この目標数値に対して、県がこれを基に次の5年間の計画を立てられると思うが、数値に関して、県独自の考え方とか、もしあったら、お聞かせいただきたい。

→ (保健体育課長)

○先般の運動能力等調査では、コロナの影響等で全国平均、愛媛県とも下がっている状況である。そういった結果を踏まえ、教育委員会では子どもの体力向上推進3か年計画を策定し、子どもの体力・運動能力テストの県平均が全国平均を上回る、同等以上にするという目標を立て、令和6年度まで取り組んでいく考えである。

(田口会長)

○災害が起きた時に子どもたちは自分の足で歩いて移動しないといけない。その距離が100キロで大規模災害を想定しているが、100キロ歩ける人はそんなにいない。皆さんもそのぐらいの体力を持っていないとサバイバルで生き残れない。福島に津波が来た時にどうなったかという、やっぱり体力勝負であった。いかに日頃の体力向上が重要かということスポーツ庁も分かっているため、目標としては悪くない。

(渡部委員)

○非常にたくさんの調査があり、その結果をもとにスポーツ推進計画が作られている。すごい作業だなと感じた。中体連では現在、スポーツ庁から令和5年度からの運動部活動の地域移行ということが言われており、20ページあたりの間9以降に興味がある。

(福井委員)

○週末の中学校の部活動が地域移行する動きがあるが、クラブもいろいろある中、県としてどのような方向に進めていくか、計画等があれば教えていただきたい。

→ (保健体育課長)

○部活動の地域移行については、スポーツ庁が有識者会議で協議しているところで、今月中には最終的な提言が出されると聞いている。提言案の段階では、令和5年度から令和7年度までに段階的に地域移行されるスケジュールとなっている。各市町が実際に推進するための推進計画を立てることとなるが、県でも推進計画を立てるかどうかははっきりしない。一部報道では、県が立てた推進計画に倣って

市町も推進計画を立てる流れとなっているが、今後の状況次第である。

(中川委員)

○子どもがスポーツ離れしているという傾向は非常に強くなっている。ただ、生涯にわたって運動・スポーツを継続したい子どもが、児童では現在の数値で86%である。非常に高い数字がでていて、やりたいという思いはあるが、実際に実施している割合は低いのが現状かなと思う。今やりたいという子どもにいかにやれる場を設けていくかがすごく大事かなと思う。もう一つ突っ込んで思うのが、その前段階である幼児の段階で、その思いを育てる措置がすごく大事かなと考える。ただ、幼児や幼稚園の子どもたちに関する事業費はあまり多く無いと思うため、そのあたりの事業を増やしていく必要があると思う。

(田口会長)

○年齢が低くなればなるほど、事業が増えていくと良いと思う。

(大野委員)

○最近スポーツをしている小・中学校の子どもと接していて一番危惧していることは、アンダー18、16、15、12で強化してもらえるシステムはあるが、競技力だけが上がっていることである。自分たちがスポーツをさせてもらっている段階で、誰が何をしてきているのかということや段々と忘れていっていると思う。保護者の方も子どもにそういうことを教えないし、指導者も指導だけで良い。このような状態がまん延しているように感じる。ぜひ競技スポーツ課の「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業費」の中で、トップアスリートと呼ばれる子供たちにボランティアの方たちはどんなことをしているのかを活動の中で時間をとってほしい。対応してくださっている方々を呼んで、話をしてもらい、活動が終われば、体育館周辺を掃除して帰るとか、片付けを自分たち自らがやるとか。自分たちがやることで、人のための役に立つことを覚えていかないと、競技だけでは親も子どもも勘違いしたまま育っていかないかなと非常に危惧している。小さいうちから言葉だけではなく、感謝することを、事業としてコラボさせて、子供を育てていく。一つの事業として入れていただけたらありがたいかなと思う。大きな大会があればそこにボランティアの方がいる。一緒に最後清掃していくとか、そういう事業が愛媛の中にはありますよと。ぜひともコラボ事業をいろいろなところでしてほしい。

(田口会長)

○海外と比較すると、水泳大会では必ずウエルカムパーティが先にあつて、グッバイパーティがある。食事会だが日本はほとんどない。コミュニティとしてすごく良いため予算化していただけるとありがたい。

(清水委員)

○意識調査の関係ですが、今回、障がいの方を調査対象にして本当にありがたい。私どものスポーツ活動にも結果を反映させていきたいと思う。お願いだが、肢体不自由や視覚、聴覚、知的、精神など様々障がいの方々がいるため、それぞれ障がいの方の意向が反映させられるような幅広い調査をしていただければありがたい。

(友澤委員)

○各委員の方々がおっしゃっていただいたことは、ぜひ反映していただければありがたい。児童・生徒に関する県民のスポーツに関する意識調査の中の競技が、障がい者スポーツとその他を含めて20個の選択肢になっているが、中体連が約18、高体連が約30の競技があるので、児童・生徒には高校生も入っているため、選べる部活動の数、種類は加えていただきたい。

もう一つは先程から話題にあるとおり、現場の考えは関係なく、運動部活動が確実に地域移行するのは間違いない。特に中学校は進んでいくのは見えている。そういった部分で私の知っている範囲では、国では指導者に対してお金は出さない。地域では都心部にはいろいろな選択肢があると思うが、愛媛でも松山から離れていけば、選択しようにも、指導者がなかなか見つからない。その現状の中で、予算の中にある「部活動指導員配置促進事業」はちょうど5年前の予算の中の人数と令和4年度とさほど変わったものでもない。国や県では予算がでないが、地域移行が確実に来年度から進んでいくことは保護者の負担になる。なかなかお金の厳しいご家庭もあり、地域に部活動を預けていくにしても、来年度以降にはなるが、最初のうちは何かしら県や市町から少し補助していくような計画にしていいただければありがたい。

前回の推進計画は国体の年に策定し、事務局で少しだけ関わった。今回の作業工程の中で愛媛県の教育委員会に対する意見照会が令和5年の1月に入っているが、私が前回、仕事上、教育委員会にいたときには、「ここまでの推進計画ができています。中身についていかがでしょうか。」というので、いろいろなことを思いながら、メモしたり加えたりした。しかし、意見照会なので、修正・追記などはできませんとなっていた。できれば年度当初から教育委員会関係者の方々、障がい者スポーツの関係の方々との推進計画を作るに当たって、連携を密にしていいただいて、修正しながらやっていただければありがたい。特に教育委員会では教育大綱で大きな目標が作られているため、毎年、重点項目を教育改革に基づいて作っている。大きなスポーツに関する推進計画があれば、それに基づいて教育委員会も学校改革、授業、部活動、そういったところに少しでも反映、連動していくのではないかと思うので、いろいろな数値目標にしても連携を図っていただきたい。